

(様式)

## 会議等速報

件名	令和7年度第1回 鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会	作成課	観光交流局 世界遺産・ジオ・ツーリズム 推進課
日時	令和7年10月8日(水) 14:00～15:30		
場所	市役所みなと大通り別館4階401会議室		
出席者	委員 14名		
市出席者	委員:堀之内観光交流局長 事務局:児玉観光交流局次長、世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課職員		
会次第	1 開会 2 協議 (1) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画に基づく事業・取組について 3 その他 4 閉会		
主な意見	<p><b><u>(1) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画に基づく事業・取組について</u></b></p> <p>○今後、インバウンド対応や障害の有無にかかわらず多様な方々を受け入れることになるため、以下のような情報を市のサイトで一覧で確認できるようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ バリアフリー対応(車椅子用トイレの有無など)</li><li>・ 食事対応(ビーガン対応の有無、アレルギー対応など)</li><li>・ NG 食材の確認項目(例:蕎麦アレルギー)</li></ul> <p>○令和7年度の目標値を6年度実績が超えているものがある。社会変動が激しい現代では、柔軟な計画の見直しが重要。数字の達成だけでなく、その意味や活用方法が問われるべきと思う。現状に合わせたバージョンアップも必要ではないか。</p> <p>○農家民泊や地域受け入れの取り組みは、個別の努力に頼っている部分が多く、継続性や稼働率に課題がある。来訪者が一度来ても次につながらないケースがあり、準備した側のモチベーション低下につながっている。今後は、個人や単体での対応ではなく、地域や関係者がチーム・グループとして連携し、受け入れ体制を構築することが重要。</p> <p>○農家民泊について、「完璧に受け入れる」ではなく、「関わってもらおう」スタイルで、参加のハードルを下げる。興味を持った人が一度離れても、また戻ってこられるような柔軟な仕組みが必要。</p> <p>○景観への取組みもしているようだが、田んぼの景観というと、棚田だけとなっている。松元地域の谷合の田んぼなどの景観も素晴らしい。本当に鹿児島市らしい景観として、そういったものも発信できるとより良いと思う</p> <p>○農家民泊の受入家庭の内容が分かりづらいため、実際、どういうことをしているのか映像や写真などを使って視覚的に分かるようにすると、安心感が出て、受入家庭や体験者が増えるのではないかと。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>		

- 市外の地域で、抹茶をテーマにした富裕層向けツアー(1台50万～100万円)と言うものをテレビで見たが、鹿児島市では中間層向けの取り組みが中心であり、富裕層向けの戦略が未確立だと思うので、ターゲット層の整理と戦略の明確化が必要だと思う。
- 北海道では農作業風景や巨大農機具が観光資源として注目されている。鹿児島市でも地域ならではの風景や作業風景を観光資源として活用できる可能性がある。外部視点による魅力の再発見とコンテンツ化が重要だと思う。
- 企業が鹿児島市に来訪する理由として、「何を学べるか」「どんな価値があるか」を明確にすることが重要である。そのため、モニターツアーを実施する際には、これらの点について確実にヒアリングを行ってほしい。
- 協議会や事務局が活発に動いている今だからこそ、持続可能性や関係性の構築が重要。行政と民間の役割分担を整理し、情報を活かすための中間組織や横の連携を担う団体の育成が必要。行政が集めた情報や意見を活かすためには、協力してくれる団体の存在が重要。今がチャンスであり、事業者や関係者が成長できるスキームを一緒に考えていくことが望まれる。